授業科目	認知症の理解Ⅱ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	認知症の人が「その人らしく暮らす」ために、関わる際の留意点と地域で支える具体的な視点について学習します。				
到達目標	認知症の理解と、認知症の人の理解ができ、その人らしさを大切にした関わりが出来る。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 13　認知症の理解　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	定期テスト、小テスト、提出物、グループワークや発表への積極的姿勢などを総合的に評価します。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	10	
	その他	20	

履修上の留意事項	当該科目では、認知症に関する基礎的知識を活かして、関わりや地域で支える視点および実践的な内容の授業を展開します。各授業において小テストを実施し基礎的知識の確認をします。2・3・4 の授業は、現場の介護福祉士の講義となります。認知症の人の理解を深め、関わることができるように学ぶ意欲をもって授業に臨んでください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、1 年の振り返り（髙橋）	本授業の進め方、1 年次の振り返りテスト、パーソン・センタード・ケアについて
	2	認知症ケアの実際①（越後）	現場で行われているケアの実際（音楽療法）
	3	認知症ケアの実際②（越後）	現場で行われているケアの実際（音楽療法）
	4	地域におけるサポート体制（木元）	地域のサポート体制について
	5	認知症の人の理解（髙橋）	ＶＲ体験①
	6	認知症の人の理解（髙橋）	ＶＲ体験②
	7	認知症の人のアセスメント(髙橋)	センター方式・ひもときシートの理解
	8	認知症ケアの実際①（髙橋）	認知症の人へのケア（コミュニケーション・食事・排泄）
	9	認知症ケアの実際②（髙橋）	認知症の人へのケア（入浴・睡眠・ＢＰＳＤへの対応）
	10	認知症の人へのさまざまなアプローチ①（髙橋）	ユマニチュード・バリデーション・回想法等
	11	認知症の人へのさまざまなアプローチ②（髙橋）	タクティールケア・学習療法等
	12	認知症の人へのさまざまなアプローチ③（髙橋）	コグニサイズ、ふまねっと、シナプソロジー等
	13	介護者支援（髙橋）	家族への支援、介護福祉職への支援
	14	認知症の人の地域生活支援（髙橋）	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア・地域生活支援
	15	まとめ（髙橋）	認知症の理解のまとめ、定期試験対策

授業科目	認知症の理解Ⅱ	担当教員 実務経験	木元　国友 有：■　　無：□	介護福祉士として地域共生施設に勤務
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護総合演習Ⅱ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	介護福祉実習Ⅰを振り返り、他者とのディスカッションを通して自己を客観的に振り返り介護福祉実習Ⅱに向けた課題を明確化する。介護福祉実習Ⅱに向けた施設理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。				
到達目標	自己の課題が明確化され、介護福祉実習Ⅱにおける課題克服にむけての取り組みが具体的に述べることができる。施設理解が深まり、実習生に求められる姿勢、視点、記録の意味を理解し、実習に向けた心の準備が整う。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和 5 年度介護実習要項』　学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	70	

履修上の留意事項

提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。理解できないままにしておくと介護福祉実習に影響します。不安なく実習に向かえるよう積極的に取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション（橋本・髙橋）	介護福祉実習Ⅱの目的・実習内容
2	介護福祉実習Ⅰの振り返り（橋本・髙橋）	一年次実習の振り返りを通して、自己課題を明確化する、コミュニケーションの基礎的知識の確認
3	実習生の役割（橋本・髙橋）	取り組み姿勢・心得、電話対応・訪問練習の再確認する
4	記録物について①（橋本・髙橋）	個人票を作成する、自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成する①
5	記録物について②（橋本・髙橋）	個人票を作成する、自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成する②
6	記録物について③（橋本・髙橋）	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成する③、実習前確認用紙の確認
7	記録物について④（橋本・髙橋）	実習日誌を記入する意義・目的、ケーススタディの記入方法の確認
8	記録物について⑤（橋本・髙橋）	誓約書・同意書の作成、お礼状の書き方、記録物の提出期限、留意点の再確認
9	実習に向けての事前準備①（橋本・髙橋）	創作活動（カード制作）
10	実習に向けての事前準備②（橋本・髙橋）	介護実践に必要な知識・技術の習得
11	実習に向けての事前準備③（橋本・髙橋）	カンファレンスの意義・目的・技術の習得
12	実習施設の理解①（橋本・髙橋）	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わりを理解する①
13	実習施設の理解②（橋本・髙橋）	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わりを理解する②
14	実習に向けての事前準備④（橋本・髙橋）	介護実践に必要な技術の習得①
15	実習に向けての事前準備⑤（橋本・髙橋）	介護実践に必要な技術の取得②

授業科目	介護総合演習Ⅱ	担当教員 実務経験	橋本　亮太 有：■　　無：□	介護福祉士として特別養護老人ホームに勤務
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護の基本Ⅳ	担当教員	阿部　幸恵		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	①介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を学ぶ。 ②介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学ぶ。				
到達目標	①介護における事故防止の基本的知識を理解し、危険予知と危険回避が考えられ述べることができる。 ②労働環境の管理について理解ができ、自己の健康管理ができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	・左記「レポート」は授業内で課題を提示します。その際の提出用紙、内容、提出期限に該当します。 ・左記「その他」については、グループディスカッション時の参加態度、姿勢、発言、記録、質疑応答、自らメモを取り考える、などの主体的な取り組み姿勢を求めます。
レポート	20	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項：テキストを基本とし、板書・プリント・グループディスカッションによる学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことの応用や実践知識の展開がなされてます。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	第 3 章　介護における安全の確保とリスクマネジメント 第 1 節～2 節　安全の確保リスクマネジメントとは	介護における安全の確保の重要性　介護事故と介護過誤事例検討
2	第 2 節　リスクマネジメントとは何か	苦情解決制度と事例検討　身体拘束
3	第 2 節　リスクマネジメントとは何か	組織体制の理解、ハインリッヒの法則、グループワーク
4	第 2 節　リスクマネジメントとは何か	生活の中のリスクと対策、医療行為の確認
5	第 2 節　リスクマネジメントとは何か	ＡＫＴシートを通し学びを深める　グループワーク
6	第 2 節　リスクマネジメントとは何か	防災の基本　日頃の備えを考える　業務継続計画（BCP）
7	第 2 節　リスクマネジメントとは何か	過去の災害から考える　介護福祉士の役割～防災と減災そして対策
8	第 3 節　感染症対策	感染症の基礎知識　感染対策三原則　事例検討
9	第 3 節　感染症対策	感染症発生時の対応　個別の感染症対策
10	第 3 節　感染症対策	個別の感染症対策
11	第 3 節　感染症対策	服薬管理と薬剤耐性菌の理解　個別の感染症のポイント確認後問題作成
12	第 5 章　介護従事者の安全 第 1 節　健康管理の意義と目的	労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法などの法制度
13	第 2 節　こころの健康管理	ストレスとは何か、その対処法と介護従事者がかかりやすい病気
14	第 3 節　身体の健康管理	介護従事者の健康障害　腰痛予防対策の考え方と取り組み
15	全体のまとめ	今までの振り返り・定期試験対策

授業科目	介護の基本Ⅳ	担当教員 実務経験	阿部　幸恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	国家試験対策	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	介護福祉士国家試験合格に向けて、模擬問題、過去問題を活用した問題演習を通して、必要な知識を習得する。				
到達目標	自己分析しながら計画的に国家試験に向けた学習に取り組み、国家試験合格基準を満たすことができる。				
テキスト・参考図書等	『介護福祉士国家試験模擬問題集 2025』　介護福祉士国家試験受験対策研究会　中央法規出版 必要に応じて資料を配布します。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	40	模擬試験結果、科目別基礎知識の習熟度など総合的に評価します。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	60	

履修上の留意事項	・わからないことは、その時に理解できるように積極的に授業に取り組んでください。 ・国家試験合格に向けては、授業だけではなく自己学習にて予習・復習を行い、確実な知識を身に付けてください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	科目別基礎知識の習得（吉岡）	人間関係とコミュニケーション・人間の尊厳と自立
	2	科目別基礎知識の習得（吉岡）	社会の理解（社会保障制度）
	3	科目別基礎知識の習得（髙橋）	社会の理解（介護保険制度、介護実践に関連する諸制度等）
	4	科目別基礎知識の習得（髙橋）	介護の基本①
	5	科目別基礎知識の習得（阿部）	介護の基本②
	6	科目別基礎知識の習得（橋本）	コミュニケーション技術
	7	科目別基礎知識の習得（山谷）	生活支援技術（家政学）
	8	科目別基礎知識の習得（橋本）	生活支援技術（身体介護）
	9	科目別基礎知識の習得（山谷）	介護過程
	10	科目別基礎知識の習得（阿部）	発達と老化の理解
	11	科目別基礎知識の習得（髙橋綾）	認知症の理解
	12	科目別基礎知識の習得（山口）	障害の理解（基礎・概念）
	13	科目別基礎知識の習得（泉）	障害の理解（疾患）
	14	科目別基礎知識の習得（喜田）	こころとからだのしくみ
	15	科目別基礎知識の習得（泉）	医療的ケア
	16	科目別基礎知識の習得（髙橋）	総合問題
	17	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅰ①
	18	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅰ②

	19	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅰ③
	20	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅱ①
	21	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅱ②
	22	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅱ③
	23	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅲ①
	24	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅲ②
	25	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅲ③
	26	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅳ①
	27	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅳ②
	28	模擬試験（橋本）	模擬試験Ⅳ③
	29	模擬試験振り返り①　（髙橋）	まとめ①
	30	模擬試験振り返り②　（髙橋）	まとめ②

授業科目	国家試験対策	担当教員 実務経験	吉岡　秀典 有：■　　無：□	社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護総合演習Ⅲ	担当教員	山谷　博美		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	介護福祉実習Ⅱを振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合・深化させるとともに、自己の課題を明確化し、専門職としての態度を養う。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる介護研究の意義とその方法について理解する。				
到達目標	介護福祉実習Ⅱのまとめや報告会などを通じ、学びを共有・深化させ自己の課題と展望を考えることができる。 介護研究の意義・目的を理解する。 文献等を読み、自分の考えをまとめる力を習得する。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和 5 年度介護実習要項』　学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	課題の内容や提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	70	

履修上の留意事項

今までの介護実習の総括となります。提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず担当教員のところへ確認に来るようにしてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	介護福祉実習Ⅱのまとめ	介護福祉実習Ⅱの振り返り、アンケート
2	介護福祉実習報告会	介護福祉実習Ⅱ報告会
3	介護福祉実習Ⅱ後学習①	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制①
4	介護福祉実習Ⅱ後学習②	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制②
5	介護研究のテーマ作成①	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について①
6	介護研究のテーマ作成②	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について②
7	介護研究計画書作成①	介護研究計画書作成①
8	介護研究計画書作成②	介護研究計画書作成② ※『介護研究計画書』締め切り
9	介護研究Ⅰ（文献収集・文献読込①）	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込①
10	介護研究Ⅰ（文献収集・文献読込②）	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込②
11	介護研究Ⅰ（文献収集・文献読込③）	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込③
12	介護研究Ⅰ（文献収集・文献読込④）	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込④
13	介護研究Ⅰ（発表資料の作成①）	発表に向けての原稿作成①
14	介護研究Ⅰ（発表資料の作成②）	発表に向けての原稿作成②
15	介護研究Ⅰ（発表資料の作成③）	発表に向けての原稿作成③

授業科目	介護総合演習Ⅲ	担当教員 実務経験	山谷　博美 有：■　　無：□	介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	キャリアデザインⅡ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。				
到達目標	幅広い福祉に関する活動への参加や体験を通して、多様化する社会に応じた介護福祉職に必要な知識と人間性を身につける。				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	提出課題、活動への参加姿勢、グループディスカッションへの積極的な姿勢（相手の意見の理解や発言）等、総合的に勘案し評価します。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	40	
	その他	60	

履修上の留意事項	一つひとつ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。日程調整をしながら進行します。順番は変わることもあります。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	目標設定・就職活動	個人目標とクラス目標の検討・就職活動について（履歴書作成）
	2	学科交流会①	企画・運営
	3	学科交流会②	一年生を迎える会
	4	障がい者スポーツの理解①	障がい者スポーツの理解と実践①
	5	障がい者スポーツの理解②	障がい者スポーツの理解と実践②
	6	地域実践活動①	地域の理解と社会資源の理解①
	7	地域実践活動②	地域の理解と社会資源の理解②
	8	学科交流会③	卒業生を送る会

授業科目	キャリアデザインⅡ	担当教員 実務経験	橋本　亮太 有：■　　無：□	介護福祉士として特別養護老人ホームに勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	発達と老化の理解	担当教員	阿部　幸恵		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修・4 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。				
到達目標	介護実践に必要な根拠となる心身の構造、機能、発達段階とその課題及び特徴的な疾病について述べられる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解　第 2 版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 （参考図書）『からだの地図帳』佐藤達夫　講談社				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	・左記「小テスト」は、単元ごとに小テストを実施します。 ・左記「提出物」は、DVD 鑑賞後の感想その他必要に応じてプリントの確認のための提出を求めます。 ・左記「その他」は、積極的発言や授業参加姿勢、必要資料の準備が整っているなどが含まれます。 以上を総合的に勘案します。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	10	
その他	10	

履修上の留意事項

毎回内容が違いますから休まないように自己の体調管理をしてください。休んだ際は必ず担当まで確認に来てください。
少し難しい分野かもしれません。積極的に授業に参加してください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	第 1 章　人間の成長と発達の基礎的知識	オリエンテーション　成長・発達の考え方
2	第 1 章　人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の原則・影響する要因
3	第 2 章　人間の発達段階と発達課題	発達理論・発達段階と発達課題
4	第 2 章　人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達　心理的機能・社会的機能の発達
5	第 3 章　老年期の特徴と発達課題	老年期の定義　老化とは
6	第 3 章　老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題　老年期をめぐる今日的課題
7	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①
8	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②
9	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響　注意と記憶　パーソナリテイ
10	第 4 章　老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う社会的な変化と生活への影響　老化理論
11	第 5 章　高齢者と健康	高齢者の健康が注目されるようになった背景と疾患の症状と特徴を理解する
12	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系（骨粗鬆症・骨折など）
13	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系（変形性膝関節症・腰部脊柱管狭窄症、関節リウマチなど）
14	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（パーキンソン病）
15	ここまでの振り返り	ここまでのまとめ　振り返り
16	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（脳血管疾患）

	17	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系（脳血管疾患）
	18	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系（白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴・皮膚疾患）
	19	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系（高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症）
	20	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系（高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症）
	21	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系（慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核）
	22	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系（消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変など）
	23	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系（前立腺肥大症・尿路感染症・慢性腎臓病・（復習/尿失禁））
	24	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系（糖尿病・脂質異常症・痛風など）
	25	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患（歯周病・ドライマウス）　悪性新生物（概要・変遷・法律など）
	26	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	さまざまな悪性新生物（がん）ついて
	27	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	感染症（ウイルス性呼吸器感染症・感染性胃腸炎・胆のう炎・胆管炎・疥癬）
	28	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	精神疾患（うつ病・統合失調症）
	29	第 5 章　高齢者と健康 第 3 節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	その他（熱中症・脱水・貧血）　多職種連携
	30	まとめ	今までの振りかえりとまとめ

授業科目	発達と老化の理解	担当教員 実務経験	阿部　幸恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	活動と表現	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	介護福祉対象者の日常生活の中にある様々な余暇活動の目的と実践方法を学び、介護福祉士に必要な生活支援の実践を支えるための教養を高める。また活動を通して支援者自身の心身の健康と安全を保持するための知識を養う。				
到達目標	介護福祉対象者の生活に存在する楽しみを理解し、基礎的な実践方法を身に付け、応用的思考ができるようになる。また多様な表現方法を学ぶことで、生活支援者としての「表現する活動」と「伝える活動」の実践方法を習得する。				
テキスト・参考図書等	教科書は使用せず、適宜プリントを活用する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	授業への取り組み、グループワーク参加状況、実技などを総合して評価します。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	各専門分野の講師による講話と実践体験を通した授業を展開します。積極的な姿勢で参加してください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（髙橋） 音楽活動の基本（櫻井）	授業展開・評価について 歌唱の基本　楽器の使用方法について
	2	音楽活動の実際（櫻井）	歌唱（童謡・唱歌・日本の歌）、合奏
	3	音楽活動の実践（櫻井）	活動発表と振り返り
	4	言語表現の基本（浦島）	ことばを活用した表現の基本
	5	言語表現の実際（浦島）	読み聞かせ、紙芝居の実践
	6	創作活動①（平原）	折り紙、切り紙①
	7	創作活動②（平原）	折り紙、切り紙②
	8	創作活動③（平原）	カード作成①
	9	創作活動④（平原）	カード作成②
	10	創作活動⑤（平原）	ちぎり絵①
	11	創作活動⑥（平原）	ちぎり絵②
	12	運動活動と健康管理（上山）	介護者の姿勢と健康管理の基礎知識
	13	運動活動の基本（上山）	介護者の健康管理と運動実践方法
	14	運動活動の実践①（上山）	実践方法の検討（グループワーク）
	15	運動活動の実践②（上山） まとめ（髙橋）	実践発表、振り返り カリキュラムの総まとめ

授業科目	活動と表現	担当教員 実務経験	浦島　葉子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活支援技術Ⅰ	担当教員	加藤　聖子		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では家庭生活にかかわる食生活の基本知識を学び、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる技能を高めることを目標とする。				
到達目標	・食生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『オールガイド食品成分表 2024』　実教出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験、講義中のミニテスト、提出物から総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	30	
その他	0	

履修上の留意事項

教室で教科書・プリント・視聴覚機器を使用する講義と、家政実習室を使用し演習を行います。定期試験、講義中のミニテスト、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	家庭生活の営み①	食生活の基本知識①食文化、食生活の変化
2	家庭生活の営み②	食生活の基本知識②栄養の理解（炭水化物、脂質）
3	家庭生活の営み③	食生活の基本知識③栄養の理解（たんぱく質、無機質、ビタミン）
4	家庭生活の営み④	食生活の基本知識④献立の立て方・食品の購入と選択
5	家庭生活の営み⑤	食生活の基本知識⑤高齢者・障がい者の食事と調理
6	家庭生活の営み⑥	食生活の基本知識⑥疾患と食事
7	家事支援における介護技術①	調理実習レポートの書き方，実習室の使い方，掃除とごみ捨てについて
8	家事支援における介護技術②	第 1 回調理実習　献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法
9	家事支援における介護技術③	〃　実習・反省、次回の実習について
10	家事支援における介護技術④	第 2 回調理実習　生活習慣病予防の食事、食品の調理性、技法
11	家事支援における介護技術⑤	〃　実習・反省、次回の実習について
12	家事支援における介護技術⑥	第 3 回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
13	家事支援における介護技術⑦	〃　実習・反省、次回の実習について
14	家事支援における介護技術⑧	第 4 回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
15	家事支援における介護技術⑨	〃　実習・反省、全体のまとめ

授業科目	生活支援技術Ⅰ	担当教員 実務経験	加藤　聖子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護とコミュニケーション	担当教員	中川　幸子		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を修得する。				
到達目標	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を修得する。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 1　人間の理解　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	その他については、授業への取り組み、グループワーク参加状況などを総合して評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	30	

履修上の留意事項

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	介護実践におけるチームマネジメント	介護実践におけるチームマネジメントの意義
2	ヒューマンサービスとしての介護サービス	ヒューマンサービスの特徴・特性
3	介護現場で求められるチームマネジメント	マネジメントとチームマネジメント
4	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み①	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み①
5	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み②	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み②
6	ケアを展開するためのチームマネジメント①	チームでケアをするためのマネジメント
7	ケアを展開するためのチームマネジメント②	チーム力を最大化するためのマネジメント
8	リーダーシップとフォロワーシップ	リーダーシップとフォロワーシップの実際
9	人材育成の教育体系の実際①	介護福祉職のキャリア
10	人材育成の教育体系の実際②	キャリアパスとキャリアデザイン
11	介護福祉職のキャリア支援・開発	OJT、Off-JT、自己研鑽に必要な姿勢
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント	介護サービスを支える組織の構造
13	福祉サービスの組織の機能と役割	介護サービスを支える組織の機能と役割
14	組織の構造と管理・コンプライアンス	介護サービスを支える組織の管理
15	まとめ	まとめ

授業科目	介護とコミュニケーション	担当教員 実務経験	中川　幸子 有：■　　無：□	介護支援専門員として居宅介護支援事業所に勤務
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護福祉実習Ⅱ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・4 単位	単位数	
授業形態		授業回数	100 回	時間数	200 時間
授業目的	１．本人の望む生活の実現に向けて多職種との協働の中で、介護福祉専門職としての理解と介護過程を実践する能力を養う。 ２．多様な介護現場における介護福祉専門職としての倫理観や連携、個別ケアの能力を養う。				
到達目標	令和 5 年度介護福祉実習要項参照				
テキスト・参考図書等	『令和 5 年度介護福祉実習要項』　学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	介護実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習Ⅱにおける事前学習での学びが重要となります。またその他の科目における学びを十分に理解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身に付けておくこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	多職種協働における介護の実践	対象者に応じた日常生活の援助を理解する
	2	多職種協働における介護の実践	多職種協働の中で、介護福祉士としての役割を理解する
	3	多職種協働における介護の実践	多職種協働の中で、介護福祉士としての連携について体験的に学ぶ
	4	多職種協働における介護過程の実践	個別ケアの重要性と対象者のニーズについて学ぶ
	5	多職種協働における介護過程の実践	自立支援に向けたサービスの提供方法を学ぶ
	6	その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする	

授業科目	介護福祉実習Ⅱ	担当教員 実務経験	阿部　幸恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護保険と社会保障制度	担当教員	中村　さやか		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	本科目では、我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解します。また、介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得します。				
到達目標	社会保障制度についてしくみを理解し、各制度について説明することができる。 介護保険制度や障害者総合支援制度について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座 2　社会の理解　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験、グループディスカッションの積極的な姿勢（発言、相手の意見への理解）を総合的に判断して評価します。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	本講義は教科書と配布資料を使用して進めていきます。資料の整理をしっかり行うこと、また、分からないところはすぐに解消するという事を心がけて授業に参加してください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	授業の展開、履修上の留意点、社会保障の基本的な考え方
	2	社会保障制度	社会保障制度のしくみと歴史
	3	社会保障制度	年金保険制度の概要
	4	社会保障制度	医療保険制度の概要
	5	社会保障制度	その他の社会保険と社会扶助
	6	高齢者保健福祉と介護保険制度	高齢者保健福祉の動向、介護保険制度創設の目的
	7	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ①保険者、被保険者、要介護認定の流れと利用者負担
	8	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ②介護保険給付の種類
	9	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ③介護サービスの内容
	10	高齢者保健福祉と介護保険制度	介護保険制度のしくみ④地域支援事業、地域包括ケアシステム、関係組織とその役割
	11	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者の自立と障害者自立支援制度の目的
	12	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者自立支援制度のしくみ①障害者総合支援法の概要
	13	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者自立支援制度のしくみ②サービス利用の流れ
	14	障害者保健福祉と障害者総合支援制度	障害者自立支援制度のしくみ③サービスの種類と内容
	15	まとめ	講義のまとめと復習

授業科目	介護保険と社会保障制度	担当教員 実務経験	中村　さやか 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療的ケアⅠ	担当教員	泉　共基		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・4 単位	単位数	
授業形態		授業回数	34 回	時間数	68 時間
授業目的	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する。				
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するための必要な知識が述べられ、必要な物品を準備し手順が説明できる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 15　医療的ケア　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	この科目は、34 コマすべての授業を受講しなければ評価を受けられません。 受講後試験を実施します。 試験、小テスト、各実施手順の参加態度など総合的に勘案し評価します。
レポート	0	
小テスト	10	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項

講義を中心に板書、DVD 等の視覚教材、演習を行います。・人工呼吸器、喀痰吸引、経管栄養等はシュミレーターを使用し学びます。・単元ごとの確認テストを実施し、復習に役立てます。
※この授業は 34 コマ必ず出席しなければ単位修得はできません。また、授業終了後に実施する試験に合格しなければ、医療的ケアⅡへは進めませんので、毎回の授業の中で知識を習得するように努力してください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	第 1 章第 1 節　医療的ケアとは	オリエンテーション　医療的ケアとは、医療的ケア実施の基礎
2	第 1 節　医行為について	医行為とは、医療的ケアにおける個人の尊厳・医療の倫理
3	第 1 節　喀痰吸引等制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正）	医療制度とその変遷、社会福祉士及び介護福祉士法の改正、 改正法による喀痰吸引等制度の概要
4	第 2 節　安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 【リスクマネジメント、ヒヤリハット・アクシデント】
5	第 2 節　安全な療養生活	救急蘇生　救急蘇生法の実際（DVD 鑑賞後実施）
6	第 3 節　清潔保持と感染予防	感染予防、介護福祉職の感染予防、療養環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌
7	第 4 節　健康状態の把握	身体・精神の健康　健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
8	第 4 節　健康状態の把握	急変状態について 《確認テスト》
9	第 2 章　第 1 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき　いつもと違う呼吸状態、呼吸の音を聞いてみよう！
10	第 1 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引とは
11	第 1 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引 1
12	第 1 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引 2
13	第 1 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引について 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
14	第 1 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引に関連した感染・危険性・安全確認
15	第 1 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	急変・事故発生時の対応と事前対策 《確認テスト》
16	第 2 節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引で用いる器具・器材のしくみ、清潔保持、吸引の技術と留意点

	17	第２節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引にともなうケア、報告および記録
	18	第２節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）実施手順１
	19	第２節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）実施手順２
	20	第２節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（気管カニューレ内）実施手順３
	21	第２節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）手順確認１
	22	第２節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）手順確認２
	23	第２節　高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引まとめ 《確認テスト》
	24	第３章　第１節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみとはたらき
	25	第１節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは
	26	第１節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	注入する栄養剤に関する知識、経管栄養実施上の留意点
	27	第１節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	子どもの経管栄養、経管栄養に関係する感染と予防、 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
	28	第１節　高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、 急変・事故発生時の対応と事前対策 《確認テスト》
	29	第２節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持
	30	第２節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア、報告および記録
	31	第２節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養（経鼻経管）実施手順１
	32	第２節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養（経鼻経管・胃ろう）実施手順２
	33	第２節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養（胃ろう・半固形化栄養剤）実施手順３
	34	第２節　高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養まとめ、今までの振り返り 《確認テスト》

授業科目	医療的ケアⅠ	担当教員 実務経験	阿部　幸恵 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活支援技術Ⅱ	担当教員	高橋　カツ子		
対象年次・学期	２年・前期	必修・選択区分	必修・１単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では、生活支援における家庭生活にかかわる基本知識を学ぶことに重点を置き、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる知識・技術の習得を目的とする。				
到達目標	・家庭生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させることができる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ　第２版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	定期試験、提出物から総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	0	

履修上の留意事項

教室で教科書・プリントを使用する講義と、家政実習室を使用し演習を行う。定期試験、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	生活支援とは何か	生活を理解する視点・生活支援の基本的な考え方
2	家庭生活の理解	家庭生活の営みとは　演習①
3	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭管理）
4	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭経済）　演習②
5	家庭生活の営み	被服生活の基本知識①（被服の機能・被服の管理）
6	家庭生活の営み	被服生活の基本知識②（被服の素材）　演習③
7	家庭生活の営み	被服生活の基本知識③（被服の洗濯）　演習④
8	家庭生活の営み	被服生活の基本知識④（皮膚の衛生保持・管理）　問題演習
9	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本①）
10	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本②）
11	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の基本③）
12	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用①）
13	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用②）
14	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用③）
15	まとめ	重要項目の確認と演習問題

授業科目	生活支援技術Ⅱ	担当教員 実務経験	髙橋　カツ子 有：□　　無：■	
対象年次・学期	２年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	くらしと法律	担当教員	鈴木　道代		
対象年次・学期	2 年・後期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	生活者として、生活を支援する者として役立つ法律の知識・仕組みを身につけることを目的とする。				
到達目標	①人権意識をそなえるための法の考え方や仕組みを理解し、説明できる。 ②日常生活を営むのに関連する法律の知識・仕組みを理解し、説明できる。 ③介護福祉の対象者を支援する際に役立つ法律の知識・仕組みを理解し、説明できる。				
テキスト・参考図書等	（参考図書）『最新　介護福祉士養成講座 2　社会の理解　第 2 版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験、グループワークへの参加態度、ワークシートの内容等を総合的に評価します。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	20	

履修上の留意事項	・プリント、参考資料を使用します。参考資料を毎回持参してください。 ・毎回プリントを配布します。ノート代わりのプリントは各自で整理しファイルしてください。 ・各テーマ終了時に、確認問題を実施します。学生の理解度の確認、復習に役立ててください。 ・日常生活で見聞する社会・介護福祉、労働のあり方といった情報に関心を向けてください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション くらしと法律	シラバスから授業計画、評価方法の確認 くらしに関連する法律
	2	憲法	憲法の概要と基本的人権
	3	民法①	民法の考え方と契約の仕組み
	4	民法②	援助者の法的責任と苦情解決（社会福祉法）
	5	民法③	夫婦・親子に関する法律
	6	民法④	相続・遺言に関する法律
	7	虐待に関連する法律	高齢者虐待防止法・障害者虐待防止法
	8	生活困窮に関する法律	生活困窮者自立支援法、生活保護法
	9	障害者福祉に関連する法律	障害者基本法、その他
	10	個人情報保護に関する法律	個人情報保護法とプライバシー権
	11	成年後見制度①	法定後見制度の概要
	12	成年後見制度②	権限と義務、最近の動向と課題
	13	成年後見制度③	任意後見制度の概要
	14	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業の概要
	15	まとめ	これまでの履修内容のまとめ、国試対策（過去問実施）

授業科目	くらしと法律	担当教員 実務経験	鈴木　道代 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	点字	担当教員	前佛　誠		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	介護福祉学科に学び、将来関係する職に就く者が、視覚障害者用（盲人用）文字としての点字を正しく理解し、障害者のコミュニケーション手段として、ある程度活用できることは意義深いことである。読み方、書き方の基礎・基本を中心に、正しい表記法で簡単な点字文章が書ける程度までを期待したい。また、点訳ボランティアの仕事に興味を持っていただけるとありがたい。				
到達目標	点字表記法の基本を理解し、簡単な点字文章を読み書きができる。				
テキスト・参考図書等	『点訳のしおり（2021(令和 3）年 4 月 20 日新版第 2 刷発行)』　社会福祉法人日本点字図書館				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80	毎回の提出物の評価及び「読み」・「書き」を中心としたテストにより成績評価を行う。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	20	
その他	0	

履修上の留意事項

プリント及びテキスト「点訳のしおり」を活用し、いずれの回も点字文を作成し、毎回提出する。点字は、「読む」場合と点字盤で「書く」場合とでは表裏の関係になる。毎時間の授業が常に大切である。8 回という非常に少ない授業時数であるので、気を抜くことなく授業に参加することを期待する。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション、盲人用文字	視覚障害者と文字、点字の歴史、身の回りの点字、50 音
2	点字の読み書き（1）	濁音、半濁音、拗音、撥音、促音、長音、数字　等
3	点字の読み書き（2）	アルファベット、外来語、各種記号、各種点字器　等
4	点字の表記法（1）	仮名遣い、数字・アルファベットを含む文　等
5	点字の表記法（2）	分かち書きの原則①　等
6	点字の表記法（3）	分かち書きの原則②　等
7	書き方の形式他	分かち書きの原則③、各種書式、点字文章の読み書きドリル　等
8	点字文章の作成とまとめ	点字表記法の復習、点字文章作成、まとめ

授業科目	点字	担当教員 実務経験	前佛　誠 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療的ケアⅡ	担当教員	泉　共基		
対象年次・学期	2 年・後期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	安全な喀痰吸引、経管栄養実施のため、確実な手技を習得する。				
到達目標	口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引、経鼻経管栄養、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養の評価項目について手順通りに実施できる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 15　医療的ケア　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	喀痰吸引（鼻腔内、口腔内、気管カニューレ内)、経管栄養（経鼻、胃ろう又は腸ろう）のすべての行為において 5 回以上演習を実施する。実施 5 回目以降にすべての項目についての評価結果が「基本研修（演習）評価基準」で示す手順どおりに実施できているとなった場合、演習の修了を認める。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	100	

履修上の留意事項

身だしなみを整え取り組んでください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	評価を受けるにあたっての心構え・オリエンテーション 物品チェックなど
2	喀痰吸引法	鼻腔内吸引手順・評価試験
3	喀痰吸引法	鼻腔内吸引手順・評価試験
4	喀痰吸引法	鼻腔内吸引手順・評価試験
5	喀痰吸引法	口腔内吸引手順・評価試験
6	喀痰吸引法	口腔内吸引手順・評価試験
7	喀痰吸引法	口腔内吸引手順・評価試験
8	喀痰吸引法	気管カニューレ内吸引手順・評価試験
9	喀痰吸引法	気管カニューレ内吸引手順・評価試験
10	喀痰吸引法	気管カニューレ内吸引手順・評価試験
11	経管栄養法	経鼻経管栄養手順・評価試験
12	経管栄養法	経鼻経管栄養手順・評価試験
13	経管栄養法	経鼻経管栄養手順・評価試験
14	経管栄養法	胃ろう経管栄養手順・評価試験
15	経管栄養法	胃ろう経管栄養手順・評価試験

授業科目	医療的ケアⅡ	担当教員 実務経験	泉　共基 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	レクリェーション支援Ⅱ	担当教員	長江　孝		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	世界的な健康増進の動向の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を気づく方法（ホスピタリティ）や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」（アイスブレーキング）を実施できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『レクリエーションガイドブック 40 基本のアイス・ブレーキング・ゲーム』　公益財団法人日本レクリエーション協会 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』　公益財団法人日本レクリエーション協会				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	小テスト・提出物・演習時の実技・授業への積極的な参加姿勢（発言や意見交換）を総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	30	
提出物	30	
その他	40	

履修上の留意事項	テキスト・プリントを元に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行いますので、動きやすい服装で参加してください。楽しく・積極的な参加を期待します。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	レクリエーション活動の習得	モデル・プログラムの習得
2	レクリエーション活動の習得	モデル・プログラムの習得
3	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得
4	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得
5	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得
6	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得
7	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得
8	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得
9	レクリエーション支援実習	リスクマネジメントの方法
10	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
11	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
12	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
15	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施

授業科目	レクリェーション支援Ⅱ	担当教員 実務経験	長江　集子 有：■　　無：□	レクリエーションインストラクターとしてこども共有サポートセンターに勤務
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護の基本Ⅲ	担当教員	髙橋　銀司		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	より質の高い介護福祉士となるために、介護現場における連携の在り方を基礎から応用まで学習する。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考えることの出来る視野を「多職種連携・協働」から学び、持続可能な介護福祉士としての素養を身につける。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験、提出物、その他（平常点）など総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	10	

履修上の留意事項：テキストを基本とし、板書・プリント・視聴覚機器による学習を行います。当該科目は、これまで学んできたことの応用や実践知識の展開がなされてます。多角度から物事を捉えられるように、柔軟な発想が出来るよう心がけましょう。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	介護実践における連携について
2	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働とは 多職種・連携を要請する社会の動き
3	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	なぜ、多職種連携・協働が必要なのか 多職種連携・協働が阻むもの
4	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働の効果 （演習）多職種連携・協働と社会の動きについて
5	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	介護現場での多職種連携が必要とされる意味 多職種連携・協働のためのチームづくり
6	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多様な視点と受容が必要とする協働 課題解決に対する多職種のかかわり
7	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種協働を成功させるための介護技術と知識 多職種とホスピタリティ的視点
8	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種連携に求められるコミュニケーション能力 （演習）チームに携わっているべき要素について
9	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	社会福祉士、介護支援専門員、医師、歯科医師、看護師、保健師
10	第 4 章　協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士・栄養士、歯科衛生士
11	第 4 章　協働する多職種の	公認心理士、薬剤師、サービス提供責任者、その他

		機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能	
	12	第４章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	専門職連携実践とは何か 多職種における地域での連携・協働
	13	第４章　協働する多職種の機能と役割 多職種連携・協働の実際	特別養護老人ホームの連携の実態調査から自立支援介護における多職種連携の実際
	14	第４章　協働する多職種の機能と役割 保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際	保健・医療・福祉職の役割と機能および多職種連携・協働の実際に関する総合的な演習
	15	総合まとめ	協働する多職種の機能と役割のおさらい

授業科目	介護の基本Ⅲ	担当教員 実務経験	髙橋　銀司 有：■　　無：□	介護福祉士として訪問介護事業所に勤務
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活支援技術Ⅴ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	障害があっても自立を目指し、個別性を尊重した介護の展開ができるための知識と技能を習得することを目的とする。また、これまでに学んだ生活支援技術の知識や技術を基礎として、多様化する社会や日々進化する生活支援に対応するための技術を学ぶ機会とする。				
到達目標	各領域の障害について理解し、生活全体に着目した汎用性の高い生活支援技術の知識と技法を身につける。また福祉用具、介護ロボットや地域支援における介護福祉士に必要な知識を身につけ、対象者の能力に応じた福祉用具等の選択や活用ができる能力を習得する。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 6　生活支援技術Ⅰ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新　介護福祉士養成講座 7　生活支援技術Ⅱ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新　介護福祉士養成講座 8　生活支援技術Ⅲ　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 参考図書：『福祉用具専門相談員研修テキスト』　シルバーサービス振興会　日本医療企画				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	その他については、実技達成状況の評価とする。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	20	
	その他	10	

履修上の留意事項	1～3 コマを実施後に介護実技試験を行います。自信をもって実習に臨めるよう繰り返しの練習をしましょう。 25～27 コマは、普通救命講習Ⅱの修了を目的に実施します。実施日に遅刻・欠席の場合、補講は行いません。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	介護技術の総まとめ（髙橋）	移動《実技》
	2	介護技術の総まとめ（髙橋）	着脱《実技》
	3	介護技術の総まとめ（髙橋）	排泄《実技》
	4	視覚障害に応じた介護①（髙橋）	視覚障害者の生活理解と観察視点
	5	視覚障害に応じた介護②（髙橋）	ガイドヘルプ《実技》
	6	福祉用具（髙橋・泉）	福祉用具の意義と活用　（施設見学①）
	7	福祉用具（髙橋・泉）	福祉用具の意義と活用　（施設見学②）
	8	介護ロボット（髙橋・泉）	介護ロボットの現状と展望（施設見学①）
	9	介護ロボット（髙橋・泉）	介護ロボットの現状と展望（施設見学②）
	10	福祉用具作成①（髙橋）	事例検討①
	11	福祉用具作成②（髙橋）	事例検討②
	12	福祉用具作成③（髙橋）	事例検討③
	13	福祉用具作成④（髙橋）	事例報告会①
	14	福祉用具作成⑤（髙橋）	事例報告会②
	15	肢体不自由に応じた介護（泉）	肢体不自由の理解　観察の視点　支援の展開
	16	災害時における生活支援（泉）	被災地で活動する際の心構え　災害時における生活支援
	17	人生の最終段階の理解①（泉）	人生の最終段階の意義と介護の役割
	18	感覚器障害に応じた介護	感覚器障害の理解　重複障害〈盲ろう〉の理解　観察の視

		（泉）	点　支援の展開
	19	心臓・呼吸機能障害に応じた介護（泉）	【内部障害】心臓機能障害の理解　呼吸機能障害の理解　観察の視点　支援の展開
	20	腎臓機能障害・肝臓機能障害に応じた介護（泉）	【内部障害】腎機能障害の理解　肝機能障害の理解　観察の視点　支援の展開
	21	排泄機能障害・HIV による免疫機能障害に応じた介護（泉）	【内部障害】膀胱・直腸機能障害の理解　膀胱留置カテーテルの取り扱い　小腸機能障害の理解　HIV による免疫機能障害の理解　観察の視点　支援の展開
	22	重症心身障害、知的・精神障害に応じた介護（泉）	重症心身障害の理解　知的障害の理解　精神障害（統合失調症　気分障害）の理解　観察の視点　支援の展開
	23	高次脳機能障害・発達障害に応じた介護（泉）	高次脳機能障害の理解　発達障害（自閉症スペクトラム障害　注意欠陥多動性障害）の理解　観察の視点　支援の展開
	24	筋萎縮性側索硬化症（ALS）・パーキンソン病に応じた介護 悪性関節リウマチ・筋ジストロフィーに応じた介護（泉）	【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）とは　パーキンソン病とは　悪性関節リウマチとは　筋ジストロフィーとは　観察の視点　支援の展開
	25	応急手当の知識と技術（泉）	応急手当が必要とされる理由　応急手当の方法
	26	人生の最終段階における介護②（泉）	死を迎える人の介護　多職種との連携　人生の最終段階のまとめ
	27	緊急時の対応　救命講習（橋本）	普通救命講習Ⅱ［講義］
	28	緊急時の対応　救命講習（橋本）	普通救命講習Ⅱ［実技］
	29	緊急時の対応　救命講習（橋本）	普通救命講習Ⅱ［実技］
	30	障害別の介護　まとめ（泉）	障害別の介護　授業の振り返り

授業科目	生活支援技術Ⅴ	担当教員 実務経験	橋本　亮太 有：■　　無：□	介護福祉士として特別養護老人ホームに勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活と文化	担当教員	田中　賢治		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	様々な生活文化、価値観を背景とした人々を理解し、地域共生・国際的な多文化共生を理解し、グローバルな感性と人とのかかわりを養う。				
到達目標	介護支援対象者の生活文化及び社会的ニーズに配慮した関わりができるようになるための教養を習得する。				
テキスト・参考図書等	『北海道の歴史と福祉』　北海道社会福祉史研究会 その他適宜プリント教材を活用する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	レポート、提出物、授業への参加姿勢などを総合的に評価します。
	レポート	30	
	小テスト	0	
	提出物	40	
	その他	30	

履修上の留意事項	自らの積極的な参加姿勢・取り組みを求めます。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（髙橋）	オリエンテーション　この科目の意義、目的、取り組み姿勢等
	2	北海道の生活文化①（田中）	北海道開拓の歴史
	3	北海道の生活文化②（田中）	アイヌの生活文化、同和政策と展望
	4	北海道の生活文化③（田中）	本州と北海道の生活文化
	5	社会貢献ボランティア（橋本）	学外ボランティア活動
	6	伝承遊び（浦島）	日本の伝承遊び
	7	日本と国際文化体験①（橋本）	日本と世界の食文化体験
	8	日本と国際文化体験②（橋本）	日本と世界の食文化体験
	9	地域交流①（髙橋）	地域交流事業（認知症カフェ）参加
	10	地域交流②（髙橋）	地域交流事業（認知症カフェ）参加
	11	地域共生①（髙橋・橋本）	地域における企画・検討①
	12	地域共生②（髙橋・橋本）	地域における企画・検討②
	13	地域共生③（髙橋・橋本）	地域における企画・検討③
	14	地域共生④（髙橋・橋本）	地域における取組・企画実施
	15	地域共生⑤（髙橋・橋本）	振り返りと今後に向けて

授業科目	生活と文化	担当教員 実務経験	泉　共基 有：■　　無：□	看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護過程の実践Ⅱ	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 9 介護過程　第 2 版』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、発表への積極的姿勢など総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	10	
その他	30	

履修上の留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合があるので、課題の提出期限は必ず守ってください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	介護過程の実践Ⅰの振り返り	介護過程の実践Ⅰの振り返り
2	事例検討	事例検討Ⅰ①
3	事例検討	事例検討Ⅰ②
4	事例検討	事例検討Ⅰ③
5	事例検討	事例検討Ⅰ④
6	介護の実施①	介護の実施　実施の記録①
7	介護の実施②	介護の実施　実施の記録②・ICT の活用
8	介護の実施③	情報の共有と個人情報の保護　ケーススタディの記入方法（実施状況）
9	評価	評価の意義と目的　評価の内容と方法、ケーススタディの記入方法（評価）
10	事例検討	事例検討Ⅱ①
11	事例検討	事例検討Ⅱ②
12	事例検討	事例検討Ⅱ③
13	事例検討	事例検討Ⅱ④
14	定期試験対策	定期試験対策
15	国家試験対策	国家試験対策

授業科目	介護過程の実践Ⅱ	担当教員 実務経験	髙橋　綾 有：■　　無：□	介護福祉士としてケアハウスに勤務
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	手話	担当教員	山本　浩司		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・1 単位	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	聴覚障がい（者）を理解し、手話や指文字、口話などを使って伝え合う方法を学ぶ。				
到達目標	・自己紹介など簡単な手話ができる。 ・「手話」「聴覚障がい」について基本的な事柄の説明ができる。				
テキスト・参考図書等	『さっぽろの手話』　さっぽろの手話編纂委員会　公益社団法人札幌聴聴覚障害者協会				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	授業後のまとめ（提出物）などを含めて「手話などの読み取り」や「課題文の手話表現」、「手話」、「聴覚障がい」の基本的理解の観点で評価する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	20	
	その他	10	

履修上の留意事項	教科書をもとに、日常生活を想定した基本的な手話（実技）と、ビデオなどで実際的なコミュニケーションを学びます。 手話などの学習をとおして豊かな表現力を身につけてほしいと思います。 聴覚障がい者と出会ったとき、積極的にコミュニケーションする人になってほしいと願っています。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	表現し、伝え合ってみよう	手話などの基本的な理解、挨拶等の表現
	2	名前や誕生日、出身等の紹介	自己紹介（名前や年齢等）、歌の手話表現（1）
	3	家族の紹介、趣味の紹介	自己紹介（趣味や家族等）、心情の表現、歌の手話表現（2）
	4	食事会、道案内、明日の予定	連絡、相談、報告、歌の手話表現（3）
	5	数字の使い方、指文字	数単位、指文字の使い方、歌の手話表現（4）
	6	仕事の話、昨日のこと	日常会話 1（伝え方の工夫）、歌の手話表現（5）
	7	どうしたんですか？	日常会話 2（質問と応答）、歌の手話表現（6）
	8	自己紹介（スピーチ）	復習（短いスピーチの表現と読み取り、歌の手話表現）

授業科目	手話	担当教員 実務経験	山本　浩司 有：□　　無：■	
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	介護研究	担当教員	髙橋　綾		
対象年次・学期	2 年・通年	必修・選択区分	必修・3 単位	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、各領域で学んだ知識と技術を統合し、調べ学習をするなかで分析力や思考能力、表現方法を身につけることを目的とする。				
到達目標	調べ学習を通し、興味のあることに対しての情報収集力を習得する。 他者にわかりやすく伝える力（まとめる・話す）を習得する。				
テキスト・参考図書等	指定教材はなく、各自のテーマに沿った教材を用意する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	課題の内容や提出状況、主体的な取り組み、自身のテーマに関する発表内容（原稿・抄録・伝わりやすいパワーポイント等）により総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	60	
	その他	40	

履修上の留意事項	福祉に対する理解や自身のテーマに沿っての考え、どのような援助者になりたいか等を深めるために、主体的に取り組んでください。資料作成における過程が大切ですので、各資料の締め切り日を厳守してください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	介護研究オリエンテーション①	介護研究の意義と目的
	2	介護研究オリエンテーション②	研究の基礎、方法等
	3	介護研究中間まとめ	介護研究発表に向けた今後の確認
	4	介護研究Ⅰ（発表資料の作成④）	発表に向けての原稿作成④
	5	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑤）	発表に向けての原稿作成⑤
	6	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑥）	発表に向けての原稿作成⑥
	7	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑦）	発表に向けての原稿作成⑦
	8	介護研究Ⅰ（発表資料の作成⑧）	発表に向けての原稿作成⑧ ※『発表原稿』締め切り
	9	介護研究Ⅱ（抄録の作成①）	発表に向けての抄録作成①
	10	介護研究Ⅱ（抄録の作成②）	発表に向けての抄録作成②
	11	介護研究Ⅱ（抄録の作成③）	発表に向けての抄録作成③
	12	介護研究Ⅱ（抄録の作成④）	発表に向けての抄録作成④
	13	介護研究Ⅱ（抄録の作成⑤）	発表に向けての抄録作成⑤
	14	介護研究Ⅱ（抄録の作成⑥）	発表に向けての抄録作成⑥
	15	介護研究Ⅱ（抄録の作成⑦）	発表に向けての抄録作成⑦ ※『抄録』締め切り
	16	介護研究Ⅲ（発表資料の作成①）	発表に向けてのパワーポイント作成①
	17	介護研究Ⅲ（発表資料の作成②）	発表に向けてのパワーポイント作成②
	18	介護研究Ⅲ（発表資料の作成③）	発表に向けてのパワーポイント作成③

	19	介護研究Ⅲ（発表資料の作成④）	発表に向けてのパワーポイント作成④
	20	介護研究Ⅲ（発表資料の作成⑤）	発表に向けてのパワーポイント作成⑤ ※『パワーポイント』締め切り
	21	介護研究発表準備①	発表に向けての確認①
	22	介護研究発表準備②	発表に向けての確認②
	23	介護研究発表準備③	発表に向けての確認③

授業科目	介護研究	担当教員 実務経験	橋本　亮太 有：■　　無：□	介護福祉士として特別養護老人ホームに勤務
対象年次・学期	2 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	こころとからだのしくみⅠ	担当教員	三原　彩絵子		
対象年次・学期	2 年・前期	必修・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	人の心の仕組みについて学ぶことにより、身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援、多職種協働ができるような素養を高めることに寄与する。				
到達目標	心の仕組みについて基本的で幅広い内容を日常場面に関連付けて理解できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『最新　介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第 2 版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	70	・期末試験、提出課題、授業に取り組む様子から総合的に評価します。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	20	
その他	10	

履修上の留意事項

スライド教材や体験的な学びを通して、新たな発見ができることを期待します。
実践に生かせるような知識とするために、気になること、分からないことがあれば遠慮なく伝えてください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	自己紹介、心理学とは何か
2	「健康」とは何か	健康の定義、「健康」づくり
3	「健康」とは何か	健康観、人はなぜ病気になるのか
4	こころのしくみの基礎	「こころ」とは何か
5	こころのしくみの基礎	脳のしくみ
6	こころのしくみの基礎	認知のしくみ、認知症
7	こころのしくみの基礎	学習、記憶
8	こころのしくみの基礎	思考とは何か
9	こころのしくみの基礎	感情と情動、他者との関わり
10	こころのしくみの基礎	人格について
11	人間の欲求とは	人間の欲求と自己実現
12	人間の欲求とは	意欲と動機づけ
13	自己実現と尊厳	心の発達と自己概念
14	自己実現と尊厳	よりよく生きる、ウェルビーイング
15	まとめ	全体の振り返りと介護福祉職に求められる役割

授業科目	こころとからだのしくみⅠ	担当教員 実務経験	三原　彩絵子 有：■　　無：□	臨床心理士･公認心理師として勤務
対象年次・学期	2 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		